

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2190500047
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	憩いの里 たんぼぼ
訪問調査日	平成 19年6月7日
評価確定日	平成 19年7月26日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 6月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2190500047
法人名	メディカルケア・サービス東海株式会社
事業所名	グループホーム「憩いの里」たんぼぼ
所在地	岐阜県各務原市三井町12番地 (電話) 058-382-8159

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年6月7日	評価確定日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無(リフォーム代引後)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月12日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塚原医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が残る環境に立地し窓を開けると風が吹きぬけ、季節の変化に触れながら利用者はゆったりと暮らしている。以前より“地域と密着した生活”という考えから法人の理念が「認知症であっても一人ひとりが地域の中で人間の尊厳を大切にしたい生活を送れる支援」と唱っているように、全職員は介護に対し前向きな取り組みをしている。その地域で一生を過ごすためには、利用者の状態が重度化した場合、又終末期についても家族・運営者・職員と三者の関わりで初めて対処できるという考えの基、医療機関との連携にも積極的に取り組みがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	要改善点は無かったが、さらなるサービスの質の向上に向けて努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表者・管理者は自己評価・外部評価の意義を良く理解している。外部評価を受けることで新たな気づきができ、サービスの質の向上を目指す姿勢がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の重要性は認識し3ヶ月に1回の開催となっている。地域に根ざしたホーム作りを目指していることもあり、地元関係者と交流を持ちホームの実情を知ってもらい、防災訓練等の実施時に協力を依頼するなど、一方向だけでなく双方向の話し合いの場となるよう期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に行事や預かり金の報告をしている。家族の訪問時には意見や苦情を言いやすい雰囲気心がけている。今年8月で1年を迎えアンケート方式で家族の意見・要望を引き出したいとの本部の意向もある。ホーム便りも近く発行すること、期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板等で情報収集が行われているが、地域の行事参加には至っていない。散歩などで顔見知りの人いるが、地域の学校・各家庭へホームの紹介をし、気楽なホームへの立ち寄りなど計る交流を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と共に「笑顔溢れる暮らしを支援します」というホーム独自の理念が玄関および廊下に明示しており、ケアの実践を目指し職員も理解している。	○	理念は、「地域の中で人間の尊厳を大切に生活」の言葉で表されているように、利用者の生活が人権尊重を中心とした地域密着型の取り組みとして行われている。今後さらなる努力を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念の説明をし理解を得、又ミーティング・朝の申し送り時に唱和し、日々のケアの中でも職員間で具体的に話し合い活かしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板で情報収集に努めているが、地域の行事参加には至っていない。散歩の折など声掛けはあり顔なじみの人もいる。	○	ホーム便りの発行も計画している。地域住民の一員として、行事や活動に積極的に参加し、交流を持つ機会を増やし、地域で必要とされる活動や役割を担う努力を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表・管理者は自己評価・外部評価の意義を理解している。職員に向けてはミーティングにて報告がされているが、全職員での取り組みとはなっていない。	○	自己評価は全職員で取り組むことで共通意識を持つことが出来、外部評価は当事者の気づかないことの気づきと位置づけされ、評価後の意見は会議等で話し合い全職員での取り組みが期待される。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催は3ヶ月に1回の開催となっている。会議は家族・自治会長・行政職員・管理者の参加で行われ、ホームの実情を話しサービスの内容を報告し、意見を交えている。	○	3ヶ月に1回の運営推進会議は地域の関係機関に呼びかけ、参加メンバーからの質問・要望を聞き取り、取り上げた課題について双方向的な場と捉えることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は運営推進会議以外には取られていない。利用者の中には権利擁護を受けている人もあるが、介護福祉課の担当者とのつながりを密にするには至っていない。	○	市町村は介護保険の保険者として、又福祉を推進する立場として重要な存在であり、市民福祉の面においてもホーム側から市町村に対し積極的に行事・活動等に関し情報提供し働きかけることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の様子などを伝えている。金銭管理は個人別の出納長に記入し、2ヶ月に1回家族に報告している。	○	現在定期的な報告はされてないが、ホーム便りを発行する計画がある。便りを定期的に出すことにより一人ひとりの個別の対応が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時に意見・気づき・問題点等気兼ねなく言える雰囲気がある。苦情に関しても重要事項説明時に対応の説明をしている。	○	今年の8月で開所1年を迎えるのを機に、本部でアンケートを取り意見・要望を引き出す予定をしている。提示された課題を検討し、さらなるサービスの質の向上を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者に対し個別の対応となっており、馴染みの関係が来ている。この1年で離職者は2名あるが、利用者への気配りは行っている。	○	管理者は利用者に対し、特殊な場合を除いて結婚退社などの離職の理由を説明し、信頼関係を崩さない努力をしている。今後も新旧の職員の引継ぎを十分に行い、スムーズな交代が行えるよう期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で段階に応じた研修制度があり、勤務時間内で参加できる体制は出来ているが、職員は日々の業務に追われて参加が難しい状況である。	○	勤務に支障をきたさないよう各自の段階に応じた研修計画を立て、実施に向けた取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1回本部においてホームの状況や課題等を話し合い、意見交換で交流する機会を持っている。	○	東海三県にある同法人内の交流は行われ、意見交換などしているが、地域にある他グループホームの同業者と交流する機会を持ち、研修や勉強会を通しサービスの質の向上につなげることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は行っていないが、本人・家族が何度も訪問しデイサービスの体験をしてもらうことにより、グループホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。	○	運営者は、本人や家族にホームに気軽に立ち寄ってもらったり、デイサービス見学等も行いたい思いがある。安心と納得を得るための支援が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人別担当になっている。職員は利用者の気持ちを十分に尊重し、料理・洗濯・掃除等活躍の場を作り共に共感し関心を寄せ、穏やかな生活を送れるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや意向に関心を払い、生活歴や日々の関わりの中から利用者の得意な事、又出来る事を把握し、その日の体調に合わせて利用者が笑顔で一日を過ごせるよう工夫をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が、会議で出される職員の気づきや意見を介護計画に取り入れている。家族や本人の思いも介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは通常3ヶ月に1回行っているが、緊急時はその都度見直しを行い、新たな介護計画を作成している。	○	見直しや評価は定期的に行われているが、その後のサービスへのつながりが日々の煩雑な業務に追われてなかなか行えない。記録の簡素化など工夫を検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて医療機関への受診・理美容への同行や個人的な買い物の付き添いなど個々の満足度を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個人のかかりつけ医受診もあるが、その結果はホームの協力医療機関との連携が取れ、適切な医療の継続が計られるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化へのマニュアルはあるが、終末期に対する指針が書面化していない。週2回の訪問看護があり、医師と職員も重度化や終末期に対し積極的な取り組みを行っている。	○	終末ケアに関しては家族・ホーム・医師の三者の協力が無くては成り立っていないとの本部の思いもあり、今後は利用者に情報提供を行っていきと共に、十分な話し合いを行い終末ケアに対する方針の共有化を計っていくことを希望する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉掛けや接し方は優しく温かみがあり、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応がある。個人情報には保管され、外部の目に触れるところには置いていない。来客帳もノート形式から一枚綴りに変更し、個人情報の取り扱いに対して秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と同じ向き合い、本人の得意な事・やりたいことを聞き、書道・カラオケ等一人ひとり自分のペースで生活できる支援をしている。	○	入所当時から状態変化に伴い車椅子を使用することになった人について、身体的な状況をアセスメントし直し、居室割りなどを行えると良い。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人内の管理栄養士が立てた献立に従い、調理職員が作り栄養的にもバランスのとれたものとなっている。食器を運ぶことが出来る利用者には一緒に準備してもらい、職員も同じテーブルで共に食事を楽しく取っている。	○	本部の献立表を基に調理をしているので食材等を利用者の好みに合わせることは出来ていない。栄養バランスの点から基本的な献立は必要だが、旬の食材を利用してホーム独自の調理の工夫も期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を希望している利用者もいて、入浴時間・順番も特に決めず、一人ひとりの希望にそった支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に掃除・洗濯物干し・花壇の手入れなど日常生活の中に一人ひとりの生活歴を活かした役割があり、また読書・カラオケなど楽しみごとの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物に同行したり、天気の良い日は田んぼ道を散歩したりと外気に当たる支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外来者に対しては自動ドアが開くが、玄関・非常口は施錠されている。利用者が外出しそうな様子の時は、職員が察知し付き添うことで対応している。2階のユニットは落下防止のため腰の高さまでのドアがあり、夜間のみ施錠されている。	○	家族との話し合いで利用者の安全面を考え施錠となっているが、鍵掛けは利用者の行動を制限すると考えられるため、日中鍵をかけない時間を作る工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力にて避難訓練は定期的に行っている。防火用主点検も毎日実行され、車椅子対応の避難経路の確認もしている。	○	災害時に備え地域住民や警察と協力体制を築き、定期的な訓練計画が望まれる。又、災害に備えての水・食料・備品の確保をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは本部の管理栄養士により点検され、毎日の摂取量・水分補給はホームでチェックし個別に記録している。ミキサー食の利用者には個別に職員が対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風通しの良い共用空間となっており、清潔に保たれ気になる臭いも無い。玄関・廊下・居間・トイレも不快な音や光も無く明るい雰囲気となっている。居間にはゆったりとしたソファ、廊下には藤椅子が置かれいつでもおしゃべりが出来る工夫がされている。浴室には窓があり、常に外気が入り、外の景色も見られる作りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込まれたベッド・椅子・テレビ・化粧道具・仏壇等使い慣れたもので居室作りされている。毎日仏壇にお勤めされている利用者や、朝・夕と洋服を着替え、おしゃれを楽しむ人と各自居心地の良い暮らしとなるよう工夫している。		